

# 科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

234

## 進む輸送技術

21年には、Vehicle to Everything (V2X) という自動車(移動先での購買もサービスとして含めたMaaS)と信号機や街灯などのインフラが無線通信でつながる技術が紹介された。これにより交通

の安全性や、街全体の通信(5G)などの高速リリストが登場した。その効率化(エネルギー関連通信技術や高性能半導体も含む)が期待できる。また、街たつていたが、今年競争領域を分け、協調するプラットフォームに統合される。そのた

な交通環境を構築する。自動車を構築する。自動車を活用し、さまざまなサービスを提

## 協調領域がカギ

V2Xにおける協調領域とは、交通事故減少などの安全性確保

には、自動車を活用し、さまざまなサービスを提

CESは、毎年1月に米国ラスベガスで開催される世界最大規模の最新テクノロジーの展示会である。注目のイベントの一つとして、主催者の全米民生技術協会(CTA)によるテクノロジートレンドの発表がある(表)。2000年代前半までは家電が中心であったが、11年に電気自動車(EV)が紹介され、以降毎年のように自動運転技術など、自動車関連の技術が紹介されて

め、自動車会社や自治体等の間でのコラボレーションが肝要となる。例えば、人工知能(AI)がリアルタイムな交通状況だけでなく、個人の健康状態も勘案し、徒歩を含む最適な移動手段を提案することなどが考えられるだろう。

# V2Xのインフラ整備に協働 事業化



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター フェロー 青木 崇

慶応義塾大学理工学部応用化学科卒。民間金融機関に入行後、米

## CESで発表されたテクノロジートレンド

発表年	テクノロジートレンド
1974	レーザーディスク
1981	ビデオカメラ(Camcorder)、CD
1995	DVD
2001	Xbox、プラズマテレビ
2008	有機ELテレビ
2011	コネクテッドテレビ、スマート家電、EV
2013	4Kテレビ、フレキシブル有機EL、自動運転
2017	AI、自動運転、スマートホーム、音声認識、ドローン、5G
2021	デジタルヘルス、DX、V2X、スマートシティ、5G、ロボティクス&ドローン
2022	輸送技術(V2X、自動運転)、宇宙テクノロジー、デジタルヘルス
2023	メタバース、Web3、自動運転、精密農業、AI&ロボティクス

CTA資料を基に筆者作成

日本では、高齢化による運転免許証の返納や公共交通の運転手不足が深刻な課題となっている。また、都市部では慢性的な渋滞や環境への課題もある。

そのため、代替となる安全で効率的な移動手段への期待が高まっている。今年のCESで示されたV2Xの取り組みは参考となるだろう。(金曜日掲載)